

# 県内ワイド

## 元気よ、届け

日赤県支部。被災地へ



日赤県支部長  
日赤県支部課長  
山本裕行さん

東日本大震災からもうすぐ三カ月となる今日、県民からは日赤県支部に多くの善意が寄せられる。帰還したわれわれ救護班や赤十字職員らもまた、被災地への思いは募るばかりだ。

## 寄せられる善意

同校の久光新一教頭からは「福井さんに、救護活動も精いっぱいしていただいた。物資も届けていただき、本当に感謝しています」と、何度も感謝の言葉をいただいた。校庭には、子どもたちの明るい声が響いていました。届けた福井県支部の藤井友幸事業推進

当初活動した岩手県陸前高田市高田町の市第一中学校にも届けた。同校の避難所で世話を続ける市健康福祉課の松木祐子副主幹からは「もらったお米はいくつかの避難所で配布させていただきます。今日はだいぶ落ち着いてきました。これも、発災直後の日赤福井県救護

# 絆を紡ぐ手助けを

毎年五月に行っている、恒例の赤十字運動月間行事「もつとクロスー赤十字フェスティバル」。今年は、これまでのお祭的な内容を全面的に見直し、被災地への思いをつづつた「もつとクロスー」

その会場で、平和のシンボル「鶴や、福井市の花「あじさい」など

の折り紙を貼り付け、大須の大須小学校避難所に飾られた。

被災地へのメッセージを記入したボードを

大須小学校には、一緒に鯖江市の人から寄せられたコマも届け

た。同校の久光新一教頭からは「福井さんに、救護活動も精いっぱいしていただいた。物資も届けていただき、本当に感謝しています」と、何度も感謝の言葉をいただいた。校庭には、子どもたちの明るい声が響いていました。届けた福井県支部の藤井友幸事業推進

直後の日赤福井県救護

班の皆さんのおかげで、

時にはみられなかつた、子どもたちの笑顔が戻っていた。外で遊んでいる姿をみて、身震いするくらいうれしかったと話していた。支援物資は原則として

「被災地で避難所生活を送る子どもたちに、前回よりも多くのパンを届けたい」とい



校庭のブランコで元気に遊ぶ子どもたちは5月25日、宮城県石巻市大須小学校で(日赤県支部提供)

るそうだ。

また、福井北商工会青年部からは、被災地で炊き出しを行いたいとの要望が寄せられたため、同じ日に同避難所で活動することも決まった。久光教頭の計らいで、当日は校内に宿泊させてもらえることになった。

も、県民の善意には可なり限り応えていきたいと考えている。これまでも、コマやパン、メッセージフラッグなど、できる範囲で対応させてもらった。避難所でも配ることにした。善意の輪が広がらなければ、前回よりも多くのパンを届けたい」とい

「被災地で避難所生活を送る子どもたちに、前回よりも多くのパンを届けたい」とい

「できる範囲でやらせてもらおう」。十分にはできないが、それでも被災者と支援者との「絆」を紡ぐ手助けを、少しでもさせてもらえたら。それもわれわれの一つの在り方だと思っ